

# 議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和5年6月28日(水)  
会議時間 9時54分開会 11時07分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：橋本晃明  
委員：只野敏彦、川上均、中河つる子、深沼達生(欠席)  
議長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎
- 5 議 件  
(1) 議会報告会と町民との意見交換会について  
(2) その他
- 6 会議内容 別紙のとおり

【開会 9:54】

(1) 議会報告会と町民との意見交換会について

委員長（橋本晃明）：只今から議会運営委員会を開催する。今日は深沼委員が風邪かもしれないということで欠席である。1番目、議会報告会と町民との意見交換会についてであるが、前回、6月20日に皆さんに色々出していただいた中から、議員定数などについてということで、報酬や女性議員登用を含む、それから2番目として、人口減少対策ということで、2つ大きなものを出していただいた。その他については次回ということになっていたと思う。皆さんからこの点についてあれば。

川上委員：前回、議員定数と人口減少を中心という話だったけれども、議員定数に関してはこれから活性化委員会の中で議論していくという内容もあるので、先に町民に対して議論していくというのは早いのではないかと思う。できれば町の全体の課題、人口減少も一番大きな課題だろうし、農業や観光の関係の方にシフトした方が私はいいと思う。

中河委員：女性議員を増やしたらいいというところが議題に入ればよいと思っていた。

只野委員：議員定数は時期尚早ではないかという話であるが、一度町民にどういうことを思っているのかということを知りたいのではないかと私は思うので、残していただきたい。そして、中河委員が言われたように女性議員の登用というところも含めて話し合いの場のテーマにさせていただければありがたいと思う。

委員長：議員定数などについてということは、前回、テーマにするということを確認させていただいたということで、ただ、川上委員が言うように、まだ提案するようなものはないというのは確かにそうだと思うが、どのタイミングで町民の声を聞くかという部分を押さえておけば、逆に町民の声をそこで拾って議会活性化の中で生かしていくということもできるだろうし、取り下げるということはなくてもいいと思う。決まったものを報告するというよりは、ざっくりばらんな参加者との意見交換ができればいいと思うので、ここで決めるという立場でなければテーマにしても良いのではないかと思うが。

川上委員：ようするに、どれだけ議論を深められるかだと思う。単なる上部だけの議論であれば、それは単純に人口が減ればいけないのではないかと単純な話にはなってくるけれども、前回の報告会のもので見てもらえばわかると思うが、委員会構成だとか色々な部分を考慮した場合は、前回の特別委員会の中では今の定数を維持すべきだという内容になっている。そういう部分を理解した上で、町民に対してもそういう意見もあるということをも十分提案した中で、理解した中で議論するのであればいいと思う。決して否定するものではない。これは議論しなければならないことなので、我々も事前準備、相当勉強しながら報告会に臨んで聞かなければ、上部だけの議論になってしまえば、何のための報告会かと言われてしまう部分もあるので、その辺を慎重に扱う必要があると思う。取り上げること自体は別に否定はしていない。皆さんがそういう意向であれば進めていいと思う。

委員長：ついでにと言ってはあれだが、あとは町のことについてテーマをあと2つ、3つ

具体的に議論できるような、意見交換できるようなものを設定したいと思う。

只野委員：時間配分がわからないので、いっぱいテーマを設けてしまうと、1つのテーマになかなか時間を割けないという事にならないかどうかというところはどうかと。

委員長：やり方だと思うが、前回、事務局で調べてもらったものは、ワールドカフェというグループディスカッションのようなものだが、テーブルごとのテーマを4つ、5つのグループに分かれて、そのテーブルの中で自分のところのテーマ以外のところも途中で移っていけるような話が前回あったけれども、現実的にそれが可能なかどうかという時間配分も検討しなければならないけれども、テーブルごとに分かれて話すので、全部、参加者全員が順番に検討していくということではないというのが前回提案したもの。

只野委員：ワールドカフェ自体が今回初めて出たと思うし、やるのが初めてだと思う。皆さんは4年間やってきたというのがあると思うけれども、私は初めてだから、急に変わるのはいかがかと本当は思っている。一回今までのものやってというのが本当はいいのかと思っはいるけれども、新しいことにチャレンジすることはいけれども、4年間あるので、1回目は新人3人が入ったので、急に変わるというよりも今までどおりやってみて、やっぱりこれはだめだと、変えなければだめだという方向を探った方がいいのではないかと本当は思っていた。テーブルごとにテーマを変えるのかどうかというの、一切決まっていなと思う。同じテーマでずっと喋ってもいいとも思っているし、あまりにも初めてのことなのでそうかなと。

委員長：議会報告会と町民との意見交換会は議会の側で設定して町民の方に来てもらっていることになっているが、私の感想から言うと只野委員は御影と清水の両方出たこともあったので、あまり知らないと言われても説得力がない。

只野委員：議員として知らないということ。

委員長：それは同じではないか。むしろ町民として参加して、もっとこんなふうにしたらというものがあれば、それをここで生かすというほうが建設的かなと思うが。

只野委員：そういう手もあるけれども、そこの議論をもう少し深めなければならないと思うし、私みたいに今までのようにやってみようという意見もないわけではないし、というところで考えた時に、いきなり新しい改選になって、がらっと初めから変えてしまうというのもどうなのかなと思っはいた。なかなか進み具合もわからないし。

川上委員：私も過去4年間しかやっていないのでわからなかったが、続けて、議員のなり手不足ということで取り上げて、ここ最近は続けていたけれども、結局議論にならない。政策の要望だとか議員個々の意見、考えだとか、議会の運営に関する中身ではなくて、ずれた中でお互い言っばなしという形のものであって、せっかく集まって議論を深めたいと思っても、実際には単なる要望を言われただけというような感じになっているので、そういう部分では新しく形式を変えて、ワールドカフェなりの方が町民との議論が深められるということでは、新たに進めるということはいいいのかなと思う。それに先立って、進行は我々議運のメンバーがそれぞれ進める立場になると思うし、そういうことも当然議論していかなければならないし、あとは、先に進んでいる所、例えば浦幌とかから来てもらって研修をするとか、万全の体制をある程度とって進める中でやれば、一つの試みとしてい

いのではないかと私は思う。

中河委員：只野委員は町民の側からの意見はあると思うけれども、それを、より話し合いに来た人たちが入りやすくするためには、興味のある議題が必要だと思う。皆さんが思っているようなことがあると、そこに町民の人はそのことを話したいということで行くだろうし、町民に興味を持ってもらう議題をもっていけば、そこで発言したい人はできるということ。

川上委員：今までのものはお互い、町民も議員も不完全燃焼だと思う。個々の議員がどう思っているかを町民の人は聞きたいという話だけれども、議会側としては個人の意見を言う場ではないので、あくまでも議会としての立場で、全体の中での立場としての報告なので、基本的に個人で返答はできない、あくまでも決まった人が答えるような形になっていると、そういう決め方である。そういった中でお互い不完全燃焼だったというのは、やはり改善するためにグループに分かれて、その中で町民と議員が意見交換をするという方がお互いメリットがあると、そういうことで今までのやり方を変えて、そういう方法にしたほうがお互いいいのではないかとということで、今回事務局で提案してもらったワールドカフェがいいのかわからないけれども、グループごとに分かれて議論するほうが、お互いに話しやすいのではないかとということで話をさせていただく。

只野委員：お互いが不完全燃焼だというのは今初めて聞いた感じがする。というのは、私は町民として参加していたけれども、町民としては完全に不完全燃焼である。このテーマは本当は聞きたくない、話したくないとかいうテーマであったりして、でも、そのテーマに沿って話さなければならなくて、町民としては違うこと言いたいのだけれどと思いがらいると、ある人は、そこにたどり着くためにテーマに合わせながら違う質問を出すような形をやっている気がしていた。本当は町民側からしたら自由に色々な事を聞きたいと思っていた。毎回毎回同じことをやっているの、議員側としては何も不完全燃焼ではなくて、これでいいと思っていた。同じことずっとやっているから。なり手不足と言いながら2回連続13人のところ15人出ている。なり手不足ではないと町民からしたら思うし、そういう中でそのテーマは本当にあっているのかと、後から考えれば思う。議員としてどうなのかということ自分は思っていたので、議員になった時に前のテーマをやって、本当に不完全燃焼なのかということは知りたかったけれども、川上委員が言われたように、議員も不完全燃焼だったという声があるならば、やり方を変えた方がいい。そういうふうには思えなかった。同じことをずっとやっていたし、テーマも一つに絞ってそれ以外はだめという感じで、喋ることできなかった。町民側としては本当に不完全燃焼で、最後の方は私は行きたくなかったところがあったので。

委員長：栗山町が議会基本条例を作って、議会報告会を各地でやってという話を聞いて自分たちも始めたが、議会として町民と向かい合う時に、一つ結論が出ているものについて説明していくということで、個々の議員の賛否とかいうのは押さえてという部分はずっと続いていたと思う。議会というのは色々な考え方を持った方の集まりと考えれば、そこで一つ出た結論について、反対したけど説明するしかないという感じでモヤモヤしたもの、それから、町長部局に伝えるべきものが議会に向かってやってくるので、前回の報告書を見たら執行機関の下部組織みたいになっているので、そういうのではなくて、町の意味を決定していく上で町民の声をいかに拾うか、出してもらうかという場であったほうがいいのではないかと、ワールドカフェというのは結論も出さないし、言いつばなしになってしまう場面もあるかもしれないけれども、そこで町民と議員が交流していく、意見交換していくというのはありなのではないかと感じている。時間の取り方とか、報告会

の後に意見交換会をするという流れを取って行く中で、このやり方はどうかということも皆さんに議論していただきたい。暫時休憩する。

【休憩 10 : 16】

【再開 10 : 34】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。

川上委員：今までの方法をより良くしていくという方法では、参加していただいた皆さん、そして町民の皆さんと議員との意見が活発にできるという部分では、新しくワールドカフェ形式の手法を取り入れてやったほうが良いと思う。そのための事前準備の研修は必要と思うけれども、そういう手法で今後進めていく、そして改善点があれば更に改善していくということで、町民との理解をお互い深めていく方法をとったほうが良いと私は思う。

只野委員：チャレンジしていくことは大事だし、今までのやり方は私は嫌いだったので、それを変えていくことは賛成なのでいいと思う。

中河委員：議員の個々の意見を言えるような、話せるような場にしていったほうが良いと思う。

委員長：細かいことはこれからということになるけれども、報告会は報告会としてコンパクトに、そして、意見交換のところは町民も議員も自由に活発な意見交換が本当の意味でできるようなスタイルでやると、その中でグループ討論、ワールドカフェという方法も含めながら進めていくということによろしいか。

(「はい」との声あり)

事務局長(大尾 智)：テーマについては次回以降、更に深めていくということであるが、今出た段階では、女性議員の登用の部分と議員定数、報酬の部分と人口減少対策、その3つプラスアルファということで考えていくということ。

委員長：テーマについては足りないと思うので、それぞれ人口減少対策といっても、その中でクローズアップしたいというものがあれば出していただきたいと思うし、一つのテーマでやったほうが良いというのであれば、意見交換が有意義なものになるようにテーマについてはまた考えていただきたいと思う。よろしいか。

(「はい」との声あり)

## (2) その他

委員長：その他、議会活性化についてということで、前回、川上委員からこのような事ということで進め方を出していただいたけれども、チェックするものはあると思うけれども、まず一番は、今の議会で何が足りてないのか、いい部分というものもあると思うけれども、その問題点はしっかり出していくということをやらないと、現実とかみ合わない議論をしても仕方ないと思うので、どのような進め方をしていくかということについて、まず皆さんで確認して、協議してまいりたいと思う。とりあえず、川上委員から出していただいた資料について説明頂く。

川上委員：あくまでも私の案であるが、こういう方法でやったらどうか。前提になるの

が議会基本条例、これが果たしていいのかどうかということも含めてやっていて、その中で町民参加の仕方、町民との連携、その中には議会報告会と議会モニターやサポーター制度も含まれる。あと、模擬議会の方法、出前講座や団体との懇談会をやるのかやらないのか、どういうふうにやっていくのかだとか、そして、大きくIT化の推進、これは町のペーパーレスのこともあるけれども、それに先んじてできること、議会としてできることとして、このような検討項目をやる。あと、女性議員の拡大のためにどのような条件整備をしていくとか、議員定数、議員報酬、そのためには議員報酬は報酬の見直し、政務調査費をどうするか、あと、活性化に関する事項、大まかにこれくらいのことを議論すれば網羅されるのではないかということ載せさせていただいた。なかなか我々も中身が良くわかっていないという部分も含めれば、特に進んでいるのが栗山町なので、一回、栗山町に研修視察として行って、現在の議会の取り組みについて話を聞いてくるというのも一つの方法かなと思っている。その他に鷹栖町だとか、先進的に進んでいる、早稲田大学のマニフェスト研究会で毎年、議会の活性化のランク付けをしている。その中で全国で一番進んでいるのが芽室町となっている。そういうところを先進地施策として研修して、その中から更に皆さんで議論しながら中身を決めていき、進めていくのがいいと思っている。

委員長：せっかく説明してもらったので、これについて質問があれば。

只野委員：芽室町が一番手っ取り早いというか、たまたま日曜日に芽室の議員と一緒に飲んだが、一緒に話し合いをしないかと、議員と議員で。という話もあったので、一番近くて先進的な、特にあそこは委員会の回数が多いし、充実しているということも思っているので、その点についてでもいいし、色々なことについて視察だけではなくて、討論するような部分もいいのではないかと思う。

川上委員：お互いの勉強会ということで、議会の活性化について議論するというのもいいと思う。例えば、決めるのであれば事務局の方で調整とってもらって、どういう議論を進めるかというのを決めていけばいいと思うので、そういう方法をとってもいいと思う。

中河委員：進んでいるところの方と話してみたいし、本当は西部でパークゴルフがあるというのも、そういうのに変えていったらもっといいと思うぐらいである。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 10：44】

【再開 10：49】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。せっかく隣町が議会改革では進んでいるという評価を得ている町ということもあるので、芽室町とのなにかしらの視察なのか交流会なのか、そういったものについて一回行うということで、事務局に調整してもらおうということよろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：その他に何かあるか。

事務局長：お配りした資料の説明をさせてもらう。川上委員からの資料にも、前回報告書、調査事項の精査という項目があったが、お配りしたのは前回の調査報告書及びそれに添付されていた活動経過と報酬の試算をしたものと、アンケート調査の結果

が出ている。前回の調査では3ページ目以降に書いてあるとおり、やった中で色々、例えばモニター制度の導入とか、結論としては報酬の部分については上げてもいいのではないかとということだが、実施については更に今後検討ということになった課題もあるが、全体としてこのように前回はやったということになっている。あと、広報委員会も今までとは違って常任委員会化されたということがあった。もう一つお配りしたものは、毎年、全国町村議会議長会で実態調査をやっていて、その中で色々な項目があるけれども、議員定数の部分と報酬の部分、議会活性化に向けた取り組み、男女共同参画の取り組み等々について、全国的な状況をまとめたものである。議員定数と議員報酬の部分は全国の町村議会の状況が全て載っているの、これが今年の7月1日現在の全国の状況となっているので、今後の資料として、改めてご確認いただきたいと思う。

委員長：昔、広報作るのに議員以外の人を入れて作っている町があるとかいう話もあったけれども、現状そういうので把握しているところはあるか。

事務局長：広報については前回までは、たぶん事務局お任せみたいところが大きかったと思うが、今は議員さんそれぞれ分担してやって頂いているので、かなりいい方法でやられているのではないかと思います。ここまでの議論が活かされていると思う。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 10：55】

【再開 11：01】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。次回の開催日を決めたいと思う。7月10日10時に開催したいと思う。

事務局長：その時に芽室の研修について、ちょっと事務局長に打診しておくけれども、具体的な日程まではまだ詰めておかなくていいということで。

委員長：それでは、本日の議会運営委員会はこれで終了する。

【閉会 11：07】